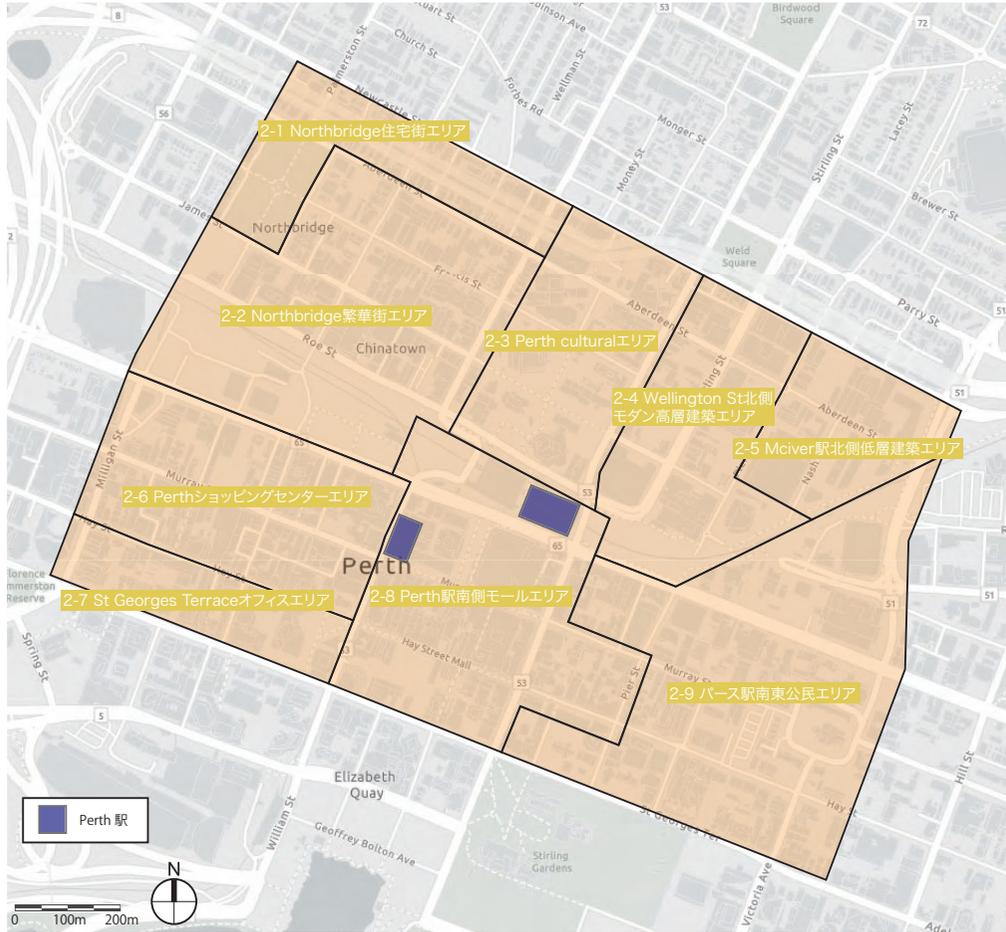


2 Perth

パースはオーストラリア・西オーストラリア州の南東に位置し、同州の州都であり最大都市です。パースという名前は1829年にスコットランド人のジェームズ・スターリング総督が植民地大臣であるジョージ・マレー卿を称え、彼の出身地のパースから命名されました。この地域は起伏が少ないことが特徴で、パース駅周辺に歴史的な建物やウォールアート、路地など様々な要素が混在しています。



2-1 Northbridge住宅街エリア

2-2 Northbridge繁華街エリア

2-3 Perth Culturalエリア

2-4 Wellington St北側モダン高層建築エリア

2-5 Mciver駅北側低層建築エリア

2-6 Perth ショッピングセンターエリア

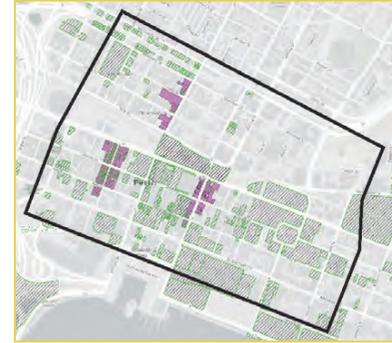
2-7 St Georges Terraceオフィスエリア

2-8 Perth駅南側モールエリア

2-9 Perth駅南東公民エリア

エリアの概要

歴史的な街並み



City Of Perthの遺産エリアと分布図

路地



路地の分布図

アートの街並み



ウォールアートとストリートオブジェ分布図

歴史を感じる建築物

1829年にイギリス人入植者により設立されたパース市には、古い建物が数多くあります。このエリアはパース市庁舎、州庁舎、セントメアリー大聖堂などがある歴史的中心部であり、これらの建築物は19世紀後半から20世紀初頭の建築の街並みを形成する要素となっています。

多様な建築様式

イギリスの雰囲気を覚えるゴシック建築やバロック建築を用いた建築物があります。多くの公共の建物にはブルータリズムの建築が用いられました。20世紀には1階に店舗、2階にはオフィスや住宅の建築が見られるようになりました。



[2-6 Perth ショッピングセンターエリア] 1階に店舗、2階に住宅の建築



[2-3 Perth Culturalエリア] 西オーストラリア州立博物館

パースには直線的に通る車の通行可能な道のほかに、歩行者しか入れない路地が多く存在します。路地にはお酒の飲める飲食店や雑貨店などがあるショッピングセンターと呼ばれるものと、店舗がなく、通行のためだけのものがあり、後者には多くのウォールアートが描かれています。それぞれの路地が異なる特色を持っており、外からは見えないものの、入れば全く異なる雰囲気を持つ路地が数多く存在しています。



[2-6 Perthショッピングセンターエリア] 通路としての路地



[2-6 Perthショッピングセンターエリア] 路地に店舗が集中するシャフト・レーン

ウォールアート

チャイナタウンを中心にウォールアートが広がっています。洗礼されたウォールアートは空間を彩る要素の一つとして街の景観に大きな影響を与えています。



[2-2 Northbridge繁華街エリア] 路地裏にあるウォールアート

ストリートオブジェ

個性的で芸術的なストリートオブジェが多く存在します。オブジェは東西南北に直線的に伸びるストリートの景観のアクセントとなっているだけではなく、空間を区切るポイントとしての役割にもなっています。

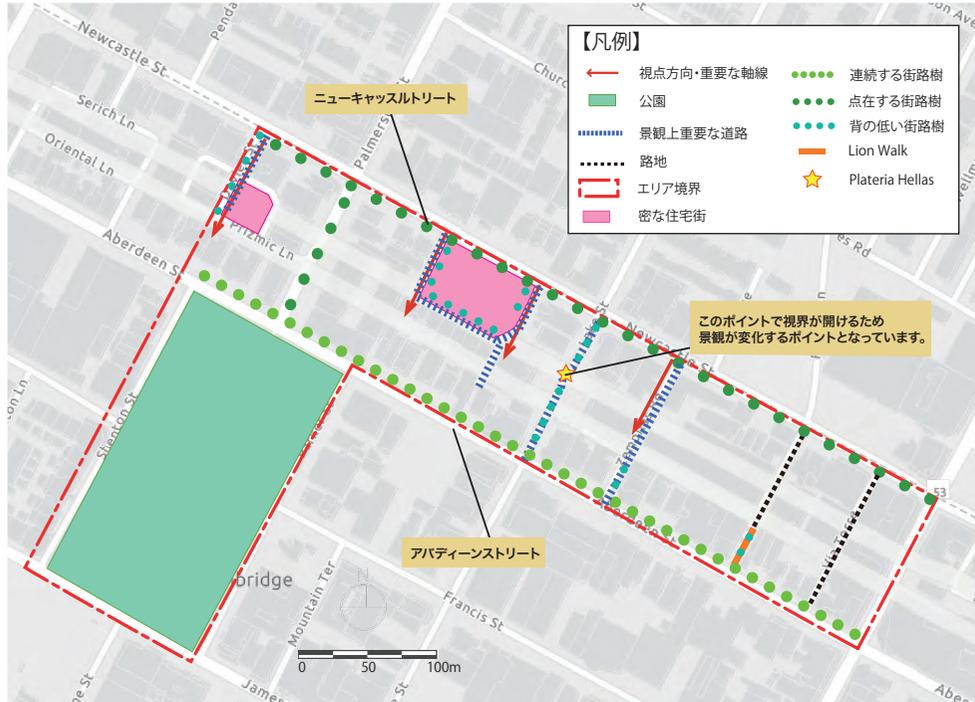


[2-3 Perth Culturalエリア] 大学前にあるストリートオブジェ

2-1 Northbridge住宅街エリア

パースの最も北の西側に位置するエリアで、ノースブリッジという市街の中でも比較的落ち着いたエリアとなっています。エリア内には公園や街路樹などの緑のある空間と住宅が混在する、静かで居心地の良い街並みが特徴となっています。

景観特性



1. 連続する街路樹が連なる住宅街



東西にのびるアバディーンストリートには連続する街路樹が広がっており、それらが統一感のある景観を演出しています。建物よりも背の高い街路樹が通りに沿って真っすぐ並んでいるため、この通りを見たときに建物よりも緑が多く並んでいるという印象を受ける空間となっています。

2. 点在する街路樹が連なる住宅街



東西にのびるニューキャッスルストリートには街路樹が点在して並んでいます。アバディーンストリートとは異なり、不規則に背の異なる街路樹が並んでいるため、統一感などはあまり感じられません。通りを見たときも街路樹が目立つことはあまりなく、建物と街路樹が調和している空間となっています。

3. 住宅が路地に密集している



東西を走るメインの通りとは異なり、路地に入ったところには住宅が密集しているというのが特徴です。湾曲する路地に沿って住宅が一軒一軒並んでいます。また路地ということもあり車通りが少なく車道も狭いため、このエリアはより住宅が目立つ空間となっています。

景観形成の特徴

1. 連続する街路樹が連なる住宅街

- ・ 背の高い統一された街路樹が立ち並び、アバディーンストリートの景観を形成する大きな要素の一つとなっている。
- ・ このストリートには街路樹よりも高い建物がないため、緑の景観が直線的に続いている。



統一された街路樹の様子

具体的な保全策

- 街路樹の種類、高さを維持し、統一された直線的な景観を保つ。
- 街路樹よりも背の高い建物を建てないようにし、緑の景観を保全する。

2. 点在する街路樹が連なる住宅街

- ・ ニューキャッスルストリートにも街路樹が点在しているため、建物の外観や通りの様子など見える部分が多く、空間要素が目立つ景観が広がる。
- ・ 車道を分ける中央の部分にもスペースがあり、景観を形成する要素がアバディーンストリートよりも豊富である。
- ・ 街路樹とその他の要素との調和した景観が続いている。



ニューキャッスルストリートの様子

具体的な保全策

- 街路樹に統一性は持たせず、周りとの調和を図っていく。
- 建物の外観や歩行者空間などをもっと歩いて楽しいものにする。



車道中央スペースの様子

3. 住宅が路地に密集している

- ・ 統一された外観のものではなく、様々なデザインの住宅が並び、周辺とは独立した特徴的な景観となっている。
- ・ Plateria Hellasという広場やLion Walkというカフェに併設されている可動式のテラス席など、メインの通りとは異なった景観要素が路地に広がっている。

具体的な保全策

- この路地に規模が大きく景観を損なうような建物の建設はしない。
- 広場やテラス席などの視界が抜けるところには街路樹などを置かず、ランドマークをより目立たせるようにする。



Plateria Hellasの様子

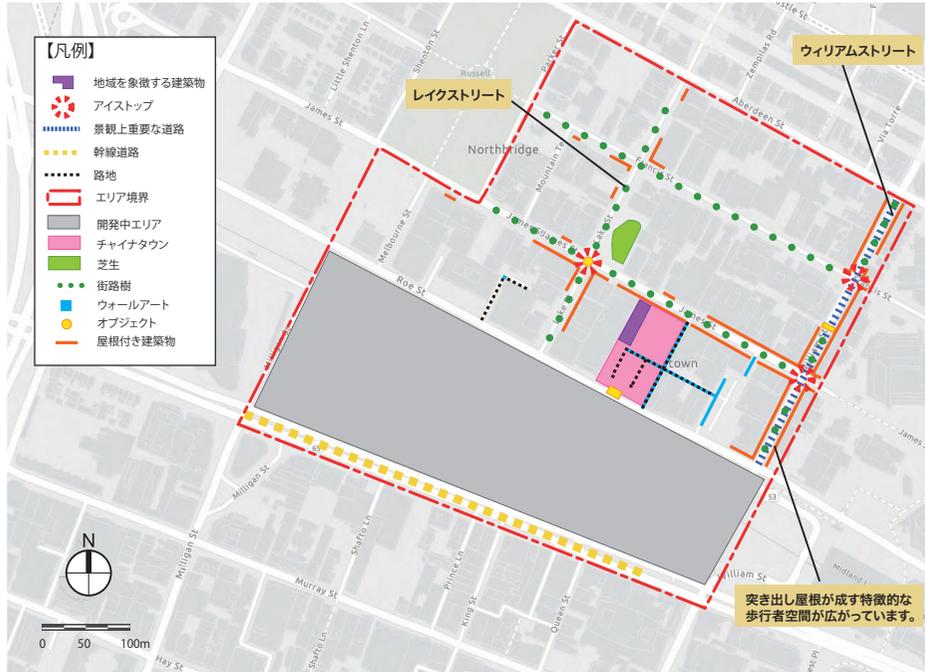


Lion Walkの様子

2-2 Northbridge繁華街エリア

パースの北側に位置するエリアで、特に飲食店が多く集まる賑やかなエリアとなっています。エリア内には歩行者空間やチャイナタウン、ウォールアート、オブジェクト、テラス席など空間を彩る特徴的な要素が多いです。東側にあるウィリアムストリートを筆頭にそれらの要素が連なっており、ウォークアブルな空間となっています。

景観特性



1.チャイナタウンの統一された景観



チャイナタウンのエリアには外観や看板などでその場所の特徴を表すようなしつらえがされた建物が並んでいます。このエリア内の他の場所にも、アジア系の飲食店が点在していますが、チャイナタウンは特にその特色が確立されており、このエリア全体の核となっている空間となっています。

2.突き出し屋根が成す歩行者空間



このエリアの商店街は1階の天井部分が突き出して屋根のようになり、その下に歩行者が形成されています。そうすることで、より明確で連続性のある歩行者空間を生み出しています。また突き出している部分には看板がしつらえられており、それらもこの歩行者空間の特徴的な要素になっています。

3.不規則で点的な要素の広がり



このエリアには特徴的なオブジェクトやモチーフ、ゲートが不規則に点在しており、それらが自動的にエリア内のシンボルマークとなっています。単純な設置物や飾りとして空間を彩るという機能だけでなく、直線的なストリートや箱的な空間をそれとなく区切るという役割も果たしており、エリア全体にメリハリを与えています。

景観形成の特徴

1.チャイナタウンの統一された景観

- ・ チャイナタウンという名前を連想させるようなゲートや建物の外観デザインなどが多く見受けられる。
- ・ オールドシャンハイという特徴的なフードコートは外と繋がっており、チャイナタウンの連続性を保っている。
- ・ 路地には様々な種類のウォールアートが設置されており、繁華街に相応しい華やかさのある景観が広がる。



オールドシャンハイの様子

具体的な保全策

- ウォールアートが駐車車両で遮断されている箇所があるため、近くの駐車場を活用し、ウォールアートの保全に務める。
- 路地の建物の統一感を保ち、ウォールアートなどの要素を目立たせる。



ウォールアートの様子

2.突き出し屋根が成す歩行者空間

- ・ テラス席や駐車スペースがある
- ・ テラス席は店舗の向かい側の歩行者空間を挟んだ場所に設置されており、お店によってデザインや席数などが異なる。
- ・ 駐車スペースはくぼんでいるため直線的な視線方向には影響を及ぼさないが、歩行者道路側からは形状の変化が見られ、景観に影響を与える要素の一つとなっている。



テラス席の様子

具体的な保全策

- 飲食店にはなるべくテラス席を設けるようにする。
- 駐車スペースを増設するときは、既存のものの向かい側には設置しないようにする。



駐車スペースの様子

3.不規則で点的な要素の広がり

- ・ 空間を彩る要素が不規則に低密度で点在していることで、そのオブジェクトが空間におけるポイントとして周辺にも大きな影響を及ぼす。
- ・ 直線的なストリートに個性的な要素があることで、景観上の視覚的な変化が生まれる。

具体的な保全策

- 直線的なストリートには何かオブジェクトを設置する。
- 設置する際には不規則で点的に設置するようにする。



チャイナタウンゲートの様子



オブジェクトの様子

2-3 Perth Culturalエリア

パース駅の北側に位置し、州立の図書館や博物館から成るパースカルチュラルセンター、大学などの教育機関を含む文化的なエリアです。エリア内には歴史的建築物が多く保全されている一方で現代的なマンションも建ち並び、古くからの街並みと現代的な街並みが共存しています。

景観特性



1. 公共施設が生む大きな空間



4つの公共施設があり、これらの公開空地から大きな空間が成り立っています。高低差やコンテナカフェなどが外部からの視線を遮り、独自の空間が形成されています。イベントも開催され、パースの文化の中心地としての役割を果たしています。

2. 保全された歴史的な街並み



このエリアでは歴史的建築物が多く保全されています。近年建てられた建築物もファザードの高さと色が歴史的建築物に似たデザインで揃えられており、パースの歴史的な街並みとその統一感が保全されています。

3. 視線の抜けにくい住宅街



ニューキャッスルストリートには街路樹が多く、且つ道幅も狭いため、他の道路よりも緑が強調され、視線が抜けにくくなっています。また、このストリートにも歴史的建築物はありますが、エリア内の他のストリートと比べると少なく、代わりに2～4階建ての現代的なマンションが多いのが特徴です。

景観形成の特徴

1. 公共施設が生む大きな空間

- パースカルチュラルセンターには広い公共空間があり、コンテナカフェやベンチ、植栽があることで、通路から見えるにぎわいが生まれ、豊かな景観となっている。
- 車が進入できない歩行者専用の空間となっている。これにより車道が省かれるため、より広々とした空間が広がり、余裕のある景観が生まれている。



コンテナカフェ

具体的な保全策

- パースカルチュラルセンター内の歴史的な設えでない建築物も、歴史的な設え（色、素材）に揃える。
- 駅側からの歩行者のアクセスをスムーズにするため、横断歩道を増やし、歩行環境を改善する。



ベンチが憩いの空間を生む

2. 保全された歴史的な街並み

- エリア内の半分以上の建物が古くから残る歴史的建築物で、歴史的な意匠を持つ低層2～3階建ての建物が街並みを形成しており、他のエリアよりも歴史的な雰囲気強く表れている。
- パースカルチュラルセンター内の博物館、シアター、美術館は歴史的な設えの建物であり、それらはセンター内だけでなく外の街並みにも影響を及ぼしている。



歴史的な設えの建築物

具体的な保全策

- エリア内の建物を建て替える際には、歴史的な街並みに配慮したファザード、高さであるかどうかを審査する。
- 街路樹の高さを低くして歴史的建築物を際立たせる。



博物館

3. 視線の抜けにくい住宅街

- ニューキャッスルストリートには高さや葉の付き方の異なる様々な種類の街路樹が並んでおり、且つ道幅が狭いため、緑が強調され、視線が抜けにくくなっている。
- マンションが多く、1階部分が店舗、2階以上が住居となっている場合が多い。他のエリアと比べると人通りはまばらであり、賑わいが少ないエリアであると言える。



様々な種類の街路樹

具体的な保全策

- 各住居のベランダにも植木を設け、ストリートを緑で包む。
- 住宅街の静けさのために、テラス席を設けない。

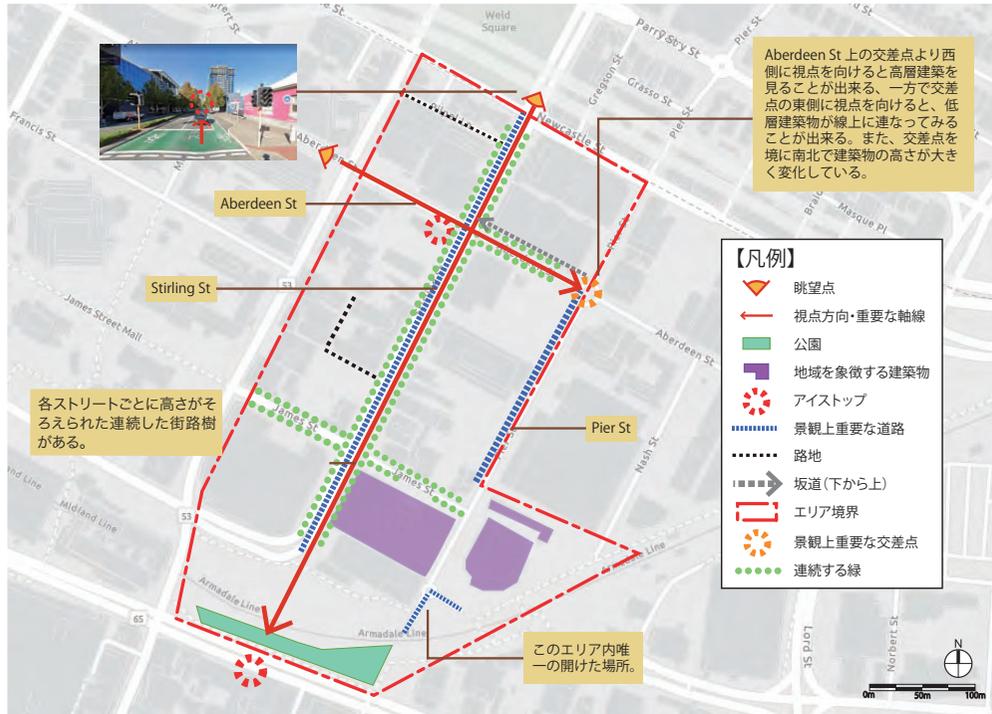


1階部分が店舗、2階以上が住居の建物

2-4 Wellington St北側モダン高層建築エリア

Perth駅の北東に位置するこのエリアには、一つ一つの規模が大きく、単調なつくりになっています。またファサードデザインはモダンなものが多くあります。車通りのあるストリートには連続した緑が配置されており、エリア内南部には芝やベンチ、バスケットコートがあり、良好な街並みが演出されています。エリア内は全体的に西から東へ下がっていく、斜面地となっています。高層建築物は主に住宅・オフィスとして利用されています。

景観特性



1. 連続する緑とモダン高層建築



Stirling Stは直線に沿って連続した緑があり、そしてその両サイドに連続した街路樹の後ろ側にはファサードがモダンかつ単調なデザインである、高層建築が連続しているという特徴が見られ、このエリア内の核となるストリートです。

2. 見晴らしの良い線路沿い



エリア内の南東にある、高層建築や連続した街路樹が見られない、唯一高層建築による圧迫感やストリートの連続性を感じることがない、開放的な場所です。この場所はPier Stの行き止まりとなっており、車両通行はほとんどないためエリア内の他の場所と比較して閑散としています。

3. 東西方向の道路における高低差



このエリアは南北には平坦な直線のストリートが広がっています。一方でいくつかある東西のストリートは西から東にかけて下がっており、見晴らしが良く、隣のエリアまで見渡すことができる眺望点となっています。

景観形成の特徴

1. 連続する緑とモダン高層建築

- 主に住宅・オフィスとして使われている高層建築は、ファサードデザインはモダン建築になっており、高さが一定にそろっている直方体建築が連続して建ち並ぶ。
- 高層建築物が建ち並ぶStirling Stには高さがそろっている連続した街路樹が植えられている。

具体的な保全策

- エリア内に建築される高層建築物は、高さを揃え、景観として高さによるばらつきがないようにする。
- 住宅・オフィスという用途を活かし、ストリート上にはあえてテラス席やベンチ等は設けず、すっきりとした景観を保つ。

2. 見晴らしの良い線路沿い

- エリア内はストリートに沿って建物が建ち並んでいる一方で、Stirling Stの行き止まりとなっており、開放的な場所になっている。
- この場所から東側には、線路沿いに歩行者・自転車専用の細いストリートがある。全く車両通行がなく、ストリートのサイドには落書きや一部ウォールアーが施された建築物の裏側が続く静かで建物の高さの変化や街路樹が全くない単調な景観が続く。

具体的な保全策

- 歩行者・自転車専用のストリートは建物の裏側に位置しているが、壁全体にウォールアートを実施することにより、単調な景観を緩和させる。
- 行き止まりの先にあるのは駐車場のため、開けた空間を維持し、安全性を確保する。

3. 東西方向の道路における高低差

- 東西のストリートは西から東にかけて下がっており、坂上の眺望点から東へ見通すことができ、ストリートの直線を際立たせている。
- 東西のストリートに面している建物は多くが4,5階建てになっており、2階以上にテラスが設けられている。グランドレベルにテラス席やベンチを配置していない分、その他で人々の活動が景観に組み込まれるような工夫が施されている。

具体的な保全策

- グランドレベルでの人々の活動がない代わりに、建物のテラスを充実させる、閑散とした雰囲気を防ぐ。



高さが一定に揃えられたモダン高層建築



スターリング・ストリート
モダン建築と高さがそろえられた街路樹の様子



スターリング・ストリート 開放感のある様子



線路沿いの歩行者・自転車専用の細いストリートの様子



アバディーン・ストリート
坂の下からの直線の眺め



2階以上の建物の壁面に設けられたテラス

2-5 Mciver 駅北側低層建築エリア

このエリアは幹線道路であるロード・ストリートの西側に隣接しています。エリア内のほとんどの建物が低層建築になっています。駐車場がいくつかあり、街区内は見通しの良いということが上げられます。また、このエリアは平日・日中の人々が活動的になる時間帯に関わらず、人通り・車通りともにほとんどなく、路地で言い争いやホームレスのたまり場があるなど、閑散としていて駅周辺の地域と比較すると治安が悪い印象のあるエリアです。

景観特性



1. 圧迫感を与えない高層建築



低層建築が多く建ち並ぶこのエリア内にはいくつかの高層建築があります。しかし、プロット地図からも分かるように、ストリートからセットバックがされており、街区内の景観に圧迫感を与えず、街路の見通しが良いという特徴があります。

2. 低層建築が生み出す上空と開放感



低層建築エリアは傾斜が全くない平坦な土地が広がっています。視線がエリアの先まで抜ける直線になっており、ストリートの両サイドには低層建築が連続して立ち並んでいます。また、街路樹の高さは周囲の低層建築に合わせているため、視線を向けた際に、アイストップとなるものがなく、空が広がって見え、開放感を感じさせます。

3. 線路沿いの単調な景観



エリアの南東の線路沿いには、地図に記載がない歩行者・自転車用の細いストリートがあります。線路と並行する直線が続くこのストリートは、線路側と反対側には低層建築の建物の裏側が続いており、グラウンドレベルが続く単調な景観となっています。

景観形成の特徴

1. 圧迫感を与えない高層建築

- このエリア内にあるほとんどの建物が低層建築物(1階・2階建ての建築物)である。
- 広い駐車場も2つほどあり、エリア内の高さが全体的に低くなっている。
- いくつか点在している高層建築は、どれもストリートから奥まって(セットバックして)建てられているため、エリア内における高層建築による視覚的圧迫感が無い。

具体的な保全策

- このエリア内に新たに高層建築を建てる場合は、セットバックを必ずさせ、視覚的圧迫感のない開けた上空と開放的な景観を維持する。
- 路上駐車を一定のストリート上にしてもらうように、促す。

2. 低層建築が生み出す上空と開放感

- 街路樹は、ストリートに面している低層建築物に高さそそえられているため、木と建物のどちらかが高いということがなく、ストリート上空の直線の景観がそそって見え、上空との境目をはっきりと認識することが出来、開放感を感じることができる。
- エリア内は全く傾斜のない平坦な土地であるという特徴があり、ストリート上の中心に立ち視線を先に向けると、建物や木に邪魔されることがなく、真っすぐに見通すことが出来る。

具体的な保全策

- 各ストリートに植樹されている街路樹の高さは周囲の低層建築に高さそそえ、定期的に入れを行い、ストリートと建物・街路樹の一直線になっている景観を保全する。

3. 線路沿いの単調な景観

- このエリアにおける特徴の1つとして駐車場が多い点が上げられる。
- エリア内南東の線路沿いには歩行者・自転車専用の静かで平坦な人気のないストリートがあり、隣接する線路の向かい側は建物の裏側になっている。
- この細いストリートに隣接するMciver駅は主要駅であるPerth駅の隣にあるにもかかわらず、無人駅であり、ほとんど人気がない。

具体的な保全策

- 車両通行止めの細いストリートのため、街路樹等の視覚的に見通しの悪くなるものは配置しない。



アバディーン・ストリート
奥まって建てられた高層建築の様子



ピア・ストリート
3階部分からセットバックされた高層建築の様子



アバディーン・ストリート 低層建築の様子



開放的な上空と周囲の建築物に高さそそえられた街路樹の様子



線路に隣接する細いストリートの様子

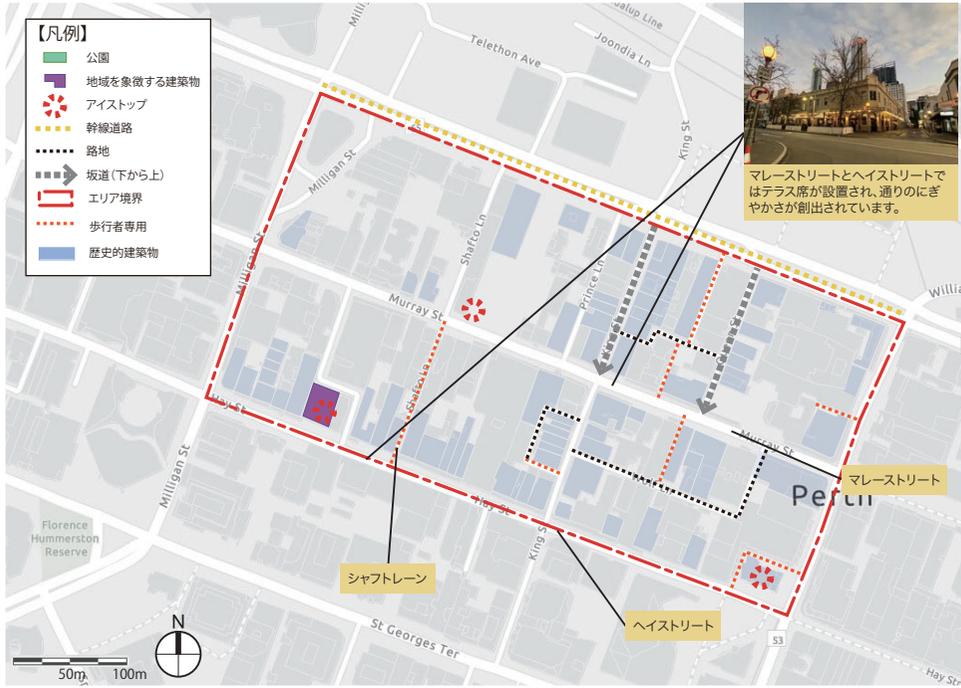


アバディーン・ストリート横の路地の様子

2-6 Perthショッピングセンターエリア

このエリアはパース駅の西側に位置する。エリア内は様々な業種が集積している。歴史的な外観の建物が多く立ち並び、古くから商業エリアとして親しまれてきた。そのため、歩道上に連続した屋根のある片側式アーケードが設置されているところも多い。また、路地が発展していることも特徴の一つであり、路地にはウォールアートだけでなく店舗もある。路地の中に入らないと何があるかわからないところも魅力になっている。

景観特性



1.路地を魅力づける店舗



このエリアは直線的に通された車の通行可能な道のほかに歩行者専用の路地が多く通されていることが特徴的な地域です。路地にはお酒の飲める飲食店や雑貨店などがあり、このような通りをショッピングセンターと呼びます。パースショッピングセンターエリアはストリートだけでなく路地まで魅力的なものであふれている地域です。

2.歴史的な外観の建物



このエリアは以前から商業地として発展していたこともあり、歴史的な建物が多くあることが特徴です。新たに建設した建物も歴史的な見た目になっているものもあります。商店街の様にストリートとして発展したため建物の外観に統一性が見られ、ファサードが似た見目で統一されている看板建築が多くあることが特徴的です。

3.随所に描かれたアート



パースは町中に多くのアート作品があることからアートに力を入れた都市として知られています。このエリアには路地が多くあり、主にそこに芸術家が描いたウォールアートがあります。アートは魅力化のツールとして取り入れられることが多いです。路地にアートを描いてもらったことにより、路地にもストリートと異なる魅力があることが特徴的です。

景観形成の特徴

1.路地を魅力づける店舗

- ・ シャフトレーンの様に路地には飲食店、雑貨店などの店舗が出店し、テラス席の様に路地に開かれた店舗形態により、にぎわいが生み出されている。
- ・ 路地全体が東西南北に多く存在することで回遊性が向上し、エリア全体に人が循環するようになっている。



シャフトレーンの入り口

具体的な保全策

- 路地の中に空き店舗をつくらない。
- 路地入口の魅力向上に努める。



路地に開かれた店舗

2.歴史的な外観の建物

- ・ 商店街の様に発展したため、道路前面に配慮し歴史的な見目で統一した看板建築のような建物が多い。
- ・ ストリートで発展したため、人が歩きやすいように片側式アーケードが設置されている。



歴史的な見た目の建物

具体的な保全策

- これから新たに建設する建物は道路前面に配慮したものにする。
- ストリートで片側式アーケードが設置されているところは老朽化に配慮しつつ、アーケードが連続するようにする。または1階部分をセットバックし歩行空間にする。



片側式アーケードが設置されている

3.随所に描かれたアート

- ・ このエリアを象徴するものとなっているアートシリーズ「ザ アドネイドのウォールアート」がランドマークとなっている。
- ・ 路地のウォールアートは路地の魅力向上に貢献するだけでなく、安全の向上にも貢献している。



アートシリーズ「アドネイド」のウォールアート

具体的な保全策

- 本エリアの建物はファサードが特徴的だが、建物の裏側は何も工夫されていないものが多い。そのため、建物の裏側にさらにウォールアートを増やす。
- ウォールアートによる来客を周辺店舗に呼び込み、アートに充てる費用にする。

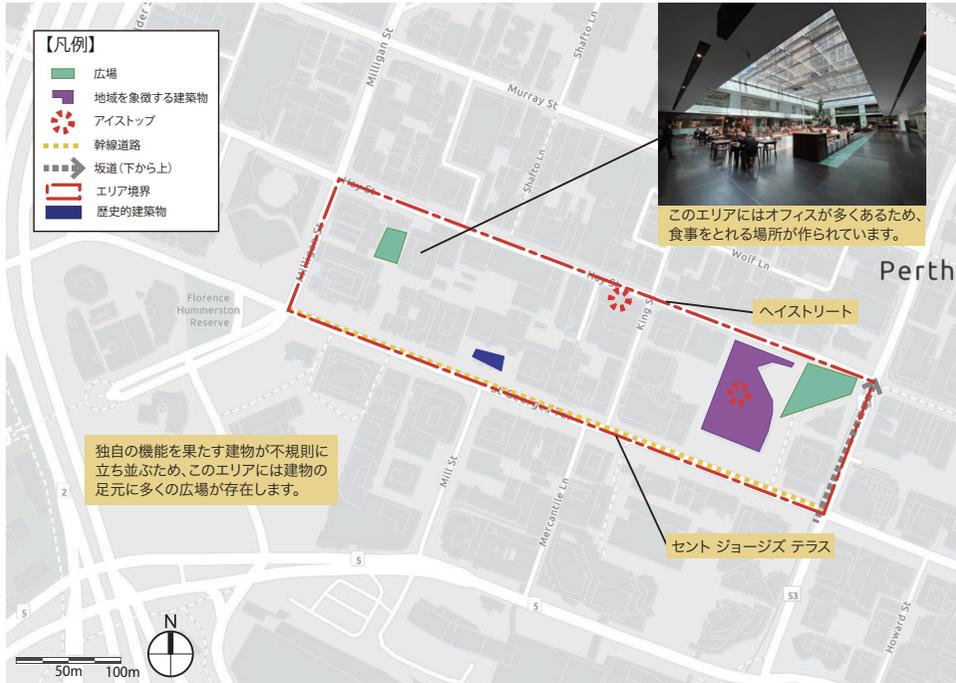


路地の壁面アート

2-7 St Georges Terrace オフィスエリア

このエリアはセント ジョージズ テラス沿いのエリアである。エリア全体に一体性があるわけではなく、それぞれの建物が独立して建っている。セント ジョージズテラスが幹線道路ということもあり、この道路沿いでは建物のつくり、ファサードのデザインが特徴的である。パース ショッピングセンターエリアとの境界の北側ではこのエリアの特徴でもある造形の独自性はもちつつ、高さや片側式アーケードの設置など配慮されたものになっている。

景観特性



1. 独立した造形の建築物



セント ジョージズ テラスが幹線道路であるという点から歩行者に対する建物の開きが行われていません。その地域の建物に一体性はなく、それぞれの建物が独自の機能として建っていることが特徴です。そのため、この地域の建物は高さが異なり、個性的な造形の建物が建てられている特色があります。

2. 街路との関係性を断つ前面



セント ジョージズ テラス沿いの地域はこの通りが幹線道路であるということもあり、道路と建物が連続していません。そのため、エントランスが数段階を上げるつくりになっている建物が多いことが特徴です。また、写真の様に1階部分のみセットバックされ、柱がむき出しになっている構造のものも多く見られます。

3. 周辺エリアに配慮したファサード



エリア北側のヘイストリート沿いの地域はパースショッピングエリアと隣接する地域です。隣接するパース ショッピングエリアは低層で歴史的な造りの建物が多くあるため、当エリアのヘイストリート沿いの地域ではそれに準じた建物が多くみられます。また、片側式アーケードも多くあるのでそこにも合わせた建物が多いのが特徴です。

景観形成の特徴

1. 独立した造形の建築物

- 都市計画上で大きく制限がされていないため建物のファサード、高さの統一感がない。
- 建物の用途が異なるため建物によってエントランスも統一感がなくなっている。



建築物の高さの統一感がない

具体的な保全策

- グランドレベルの使用用途がオフィスの場合は一段上げる、飲食店の場合は歩道活用のためにグラウンドレベルでエントランスをつくる。



統一感のないエントランス

2. 街路との関係性を断つ前面

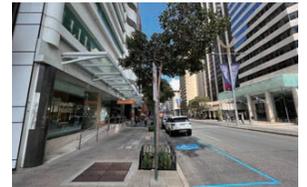
- セントラルパークは道路レベルよりエントランスをあげることで幹線道路のスピード感とは切り離された落ち着いた印象がある。
- 歩道と車道の間には街路樹が植えられていることで、役割を区分している。



GLより高い位置にあるエントランス

具体的な保全策

- 安全面を考慮し視認性を確保するために、街路樹が大きく育ちすぎないようにする



歩道と車道の間にある街路樹

3. 周辺エリアに配慮したファサード

- 隣接するエリアの建物同様に片側式アーケードを設置し、ペDESTリアンフレンドリーに努めている。
- 建物のがヘイストリートになじむよう、ファサードのつくりを古風なつくりにした看板建築になっている。



1階部分をセットバックした疑似アーケード

具体的な保全策

- 現在ファサードの様式がそろえられていない建物は建て替えの際に似た様式になる努力をする
- オフィスビルが立ち並ぶエリア特性は残しつつ、隣接するエリアとの調和に努めるために本エリア側は片側式アーケードではなく、1階部分のセットバックを行う

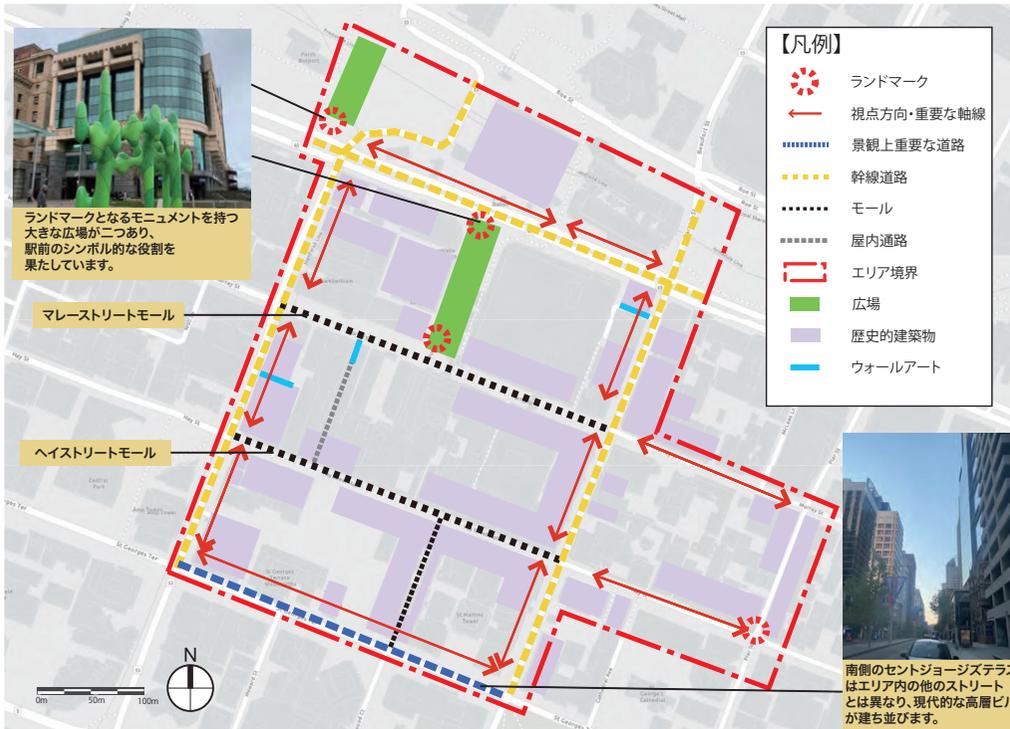


エリアに調和するための看板建築

2-8 Perth駅南側モールエリア

2本のモールをメインに、パースの中心街として商業の核となるエリアです。駅前には2つの広場、モール、商店街があり、昼夜問わず人通りの絶えない場所となっています。他のエリアよりも歴史的な建築物が多く、古くからの街並みが強く保全されているのが特徴です。

景観特性



1. 商業の中心地となる2本のモール



マレーズトリート、ヘイズトリートの2本のモールがあり、モール内には道路部分を埋めるように街路樹、ベンチ、モニュメントなどが設置されています。2階建ての店舗が高密度に建ち並び、人通りが絶えない駅前のメインストリートとして賑わいをもたらす空間となっています。

2. 保全された歴史的な街並み



パースの市街地では多くの歴史的建築物が保全されています。このエリアでは、2～3階建ての1階に店舗を有する建物が、ストリートに沿うように横長に建ち並んでいるのが特徴です。それが通りの連続性をもたらし、ストリートごとに統一感のある景観を生んでいます。

3. 歩車共存の商店街



マレーズトリート、ヘイズトリートは、車道が狭く、店舗が多いため、歩車共存のストリートとなっています。モール部分と同様に歩道にベンチやテラス席が設置されているケースが多く、それらがにぎわいをもたしています。ファサードの高さが揃えられており、ストリートとしての統一感が演出されています。

景観形成の特徴

1. 商業の中心地となる2本のモール

- ・ モール内にはベンチ、街路樹、オブジェなどがバランス良く設置され、アクティビティが連続して見えるようになっており、歩行者を飽きさせない工夫がなされている。
- ・ 2本のモールをつなぐロンドンコートは、路地のような狭い道路空間に、3階建てのロンドンの街並みを模した建築を連続して高密度に建て、外部空間を遮断することでパースの他のストリートとは異なる雰囲気を持つ空間となっている。

具体的な保全策

- モール内の1階にある飲食店には、一定数のテラス席を設けることを義務付ける。
- 天空率が低いため、日差しを遮らないように周辺の地域に高度制限をかける。

2. 保全された歴史的な街並み

- ・ エリア内の半分以上の建物が古くから残る歴史的建築物で、歴史的な設えが施された2～3階建ての建物が街並みを形成しており、他のエリアよりも歴史的な雰囲気が強く表れている。
- ・ 2～3階建ての1階に店舗を有する建物が、ストリートに沿うように横長に建ち並んでいるのが特徴である。それが通りの連続性をもたらし、ストリートごとに統一感のある景観を生んでいる。

具体的な保全策

- エリア内の建物を建て替える際には、歴史的な街並みに配慮したファザード、高さであるかどうかを審査する。
- 街路樹の高さを低くして歴史的建築物を際立たせる。

3. 歩車共存の商店街

- ・ 店頭で屋根がついており、軒先が突き出ている形状の建物が多く、2階以上と1階部分の空間を分けることで、2階以上の歴史的な設えとは異なる商店街らしい歩道空間が表現されている。
- ・ 狭い道路空間で十分な歩道の広さを確保するために、歩道のくぼみに路上駐車スペースが確保され、細い車道のための単調な景観に変化をもたらしている。

具体的な保全策

- 幅の広い歩道を保全し、歩車共存を崩さない。
- 店舗の看板の形を揃える。



ロンドンコート



モール内の街路樹



ベンチが交流を生む



歴史的な街並み



ウォールアート



連なる店舗の看板

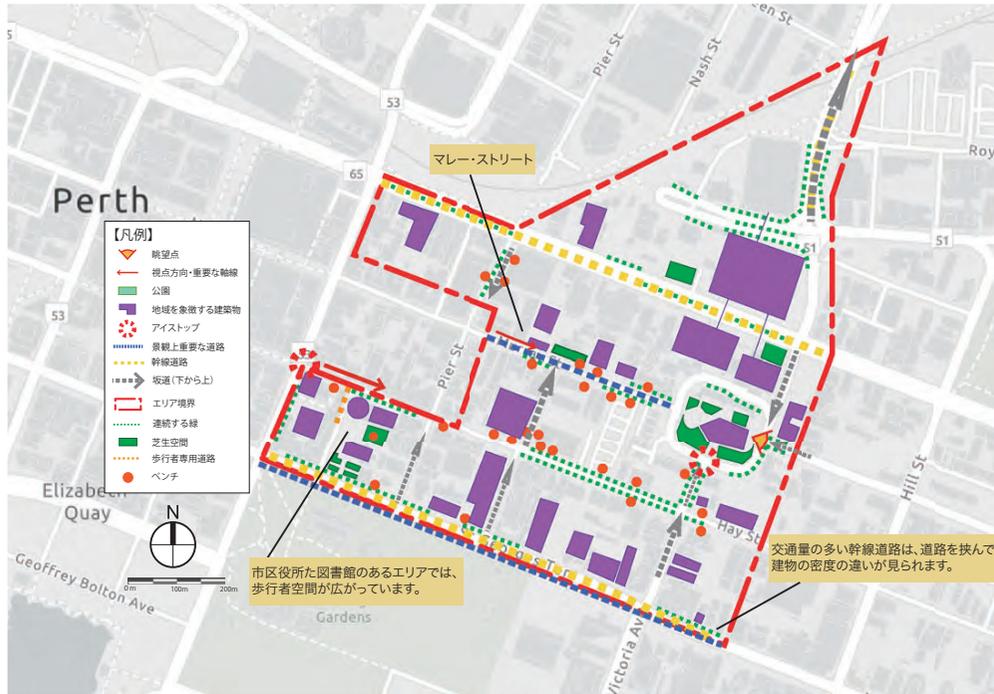


路上駐車スペース

2-9 Perth駅南東公民エリア

エリアの北側は低層建築エリア、西側はモールエリアに接しています。エリア外の東側には住宅地が広がっています。このエリアは商業と住宅のエリアを繋ぐエリアで、市区役所や政府機関、教会、裁判所など市民の生活を支える公的要素が集結しています。高さのある近代的な建築物から、歴史的な外観の建築物まで多様な景観が混在しています。

景観特性

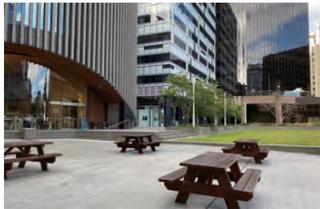


1.東西に延びる直線道路と街路樹



4つの東西に延びる直線道路には、交通量の多い南北の幹線道路と、歩行者と車が混在する2つの道路があります。直線道路には街路樹も並んでいますが、遠くまで見通しの良い景観が続くわけではなく、街路樹が建物を目隠しし、視界を遮るような景観も見られます。

2.点在する滞留空間



比較的歩行者の多い道路に接する歩道や、公民的な建築物には、人が滞留できる空間があります。滞留空間には、沿道に接しているものと建物に囲まれたものがあります。人が滞留できる空間には、ベンチや緑が設置されており歩行者が快適に、安全に滞留する事ができるようになっています。

3.景観の核となる大聖堂



このエリアの核となるのがセント・メアリーズ大聖堂です。エリア最南の幹線道路から北に向かう坂道と、東から西へ延びる直線道路のふつかり合う場所に位置します。芝生に囲まれているこの大聖堂は、周りに高い建物も無く、この建物のみが孤立してエリアのランドマーク的な存在となっています。

景観形成の特徴

1.東西に延びる直線道路と街路樹

- 直線道路には街路樹が並び、緑豊かな景観を創出している。
- 多くの街路樹は高さが高過ぎないため、空も良く見える事からバランスの良い景観を保つ事ができている。
- 街路樹の高さや大きさが統一されているわけではないため見通しが悪い場所や統一感の無い景観も見られる。

具体的な保全策

- 街路樹の高さを統一する事で、直線で見たとときの景観を保全する。
- 道路によって街路樹の高さを変え、道路に合った見通しを確保する。

2.点在する滞留空間

- 点在する滞留空間には、沿道にある空間と建物に囲まれている空間の2つがある。
- 沿道にある空間は、歩道が広がり、人の流れを調整している。
- 建物に囲まれた空間は、イベントが出来る広さがあり、人の賑わいを創出するような効果がある。

具体的な保全策

- 人が滞留する際にあふれる事が無いよう、多くの人が座れるベンチを設置していく。
- ベンチの空間を清潔に保全するためにゴミ箱の設置や市民とのゴミ拾い活動を行う。

3.景観の核となる大聖堂

- 坂の上で開けた場所に位置する大聖堂は、このエリアの核となる建築物である。
- 建築物の付近には高い建物や植栽が無い事からこのような開放感ある景観が守られている。

具体的な保全策

- 周りには高い建築物を設置しない。
- 大聖堂周りは芝生を維持し、背の高い植栽を設置しない事で開放的な景観を維持する。



高さや大きさの異なる街路樹



マレー・ストリート
街路樹によって見通しが悪くなっている景観



ヘイ・ストリートの歩道にある空間



ベンチやテーブルが置かれた滞留空間



大聖堂を真正面から見た様子



芝生が広がる開放的な景観